

2020  
MORIYAMA City

50th

## つなぐ50年 輝く 未来へ～市制50周年～⑧

昭和45年に誕生した本市は、令和2年7月1日に市制施行50周年を迎えました。記念事業は、来年度に延伸となりましたが、「新型コロナに負けない！50周年」として市民の皆さまにメッセージを届けます。

岡守山市制施行50周年記念事業推進委員会事務局(企画政策課内)  
☎・☎(582)1162 ☎(582)0539

「市

制施行50周年記念誌」18頁には、ホタルの復活を目指した取り組みについての掲載があります。乱獲や経済発展による水質悪化などにより全滅状態となった守山ボタル(ゲンジボタル)の復活を目指し、平成2年に整備されたほたるの森資料館では、ホタルの人工飼育や生態研究が行われました。この守山ボタルの研究・復活などの取り組みに大きく貢献いただいた中島 耕さん(85歳)から、当時の貴重なお話を伺いました。

### 新型コロナに負けない！50周年

## 守山ボタルへの思い ～よみがえれ 光の乱舞～

### ◇50年前の守山ボタルはどうでしたか

明治のころにはすでに全国的に守山ボタルは有名で、大正13年に日本初の天然記念物に指定されました。街灯がなくてもホタルの光ではっきりと道が見え、<sup>ひしゅう</sup>飛翔するホタルが顔に当たって歩くのも大変だったと聞いています。子どものころは数多くのホタルが乱舞し、ホタルが飛んでいることが当たり前でした。しかし、50年前の市制施行時は、ホタルがいなくなり、人工飼育が行われだしたと記憶しています。

### ◇ホタルを研究されて分かったことはありますか

ホタルを一晩中眺めていたことがあります。ある晩、羽が開かないホタルが何度も飛ぶ練習をしていたのですが、何匹かのホタルが「頑張れ～」と言わんばかりに近くに寄ってきました。ホタルにも情があるんだな、と感動しました。

また、ホタルの幼虫に耳があるか、を調査したことがあります。幼虫は振動を感じ取って動いていますが、音楽をホタルの水槽に当てると、曲の振動を感じてしっぽをピンツと上へ向けて歩くんですよ。

### ◇今後どのようなまちになってほしいですか

緑豊かで透き通った水が流れる川は、人だけでなくホタルにとっても住みよい環境です。ホタルが顔に当たるほどだった明治のころのように、とはいいいませんが、市民にとってホタルがいて当たり前と感じる時代がくることを願っています。



中島さんが大事にスクラップしていた昭和8年6月2日付新聞の記事

### ◀中島 耕さん

平成6年から7年間、ほたるの森資料館で研究員として働く  
全国ほたる研究会 元幹事  
市制施行50周年記念事業「第33回全国ほたる研究大会」の開催に尽力

ほたるの森資料館の研究員時代からこれまで、守山ボタルの復活に懸命に取り組んでいただいた中島さんの想いを、次の50年につないでいきたいと思います。